

シリーズ 第16回

卒業生のお店紹介



丸子女幼稚園

27期生 成田 毅

東京都大田区下丸子にある「丸子女幼稚園」で園長を務める27期生の成田毅さんにお会いしてきました。



丸子女幼稚園の歴史は古く、昭和二十七年ころ先々代のおじいさんが創立して以来、三代五十年以上にわたり続く「老舗」です。

東京大田区下丸子にある「丸子女幼稚園」で園長を務める27期生の成田毅さんにお会いしてきました。

丸子女幼稚園の歴史は古く、昭和二十七年ころ先々代のおじいさんが創立して以来、三代五十年以上にわたり続く「老舗」です。

丸子女幼稚園の歴史は古く、昭和二十七年ころ先々代のおじいさんが創立して以来、三代五十年以上にわたり続く「老舗」です。

丸子女幼稚園の歴史は古く、昭和二十七年ころ先々代のおじいさんが創立して以来、三代五十年以上にわたり続く「老舗」です。

丸子女幼稚園の歴史は古く、昭和二十七年ころ先々代のおじいさんが創立して以来、三代五十年以上にわたり続く「老舗」です。

詩歌に見る風のいろいろ(下)

元国語科教諭 澤田 陸雄



ついに旅先の石見の国で亡くなったと言われる柿本人麻呂にこんな歌がある。

行く身のつらさを歌に託した。笹の葉は山全体が鳴動するかと思われほどに、風に葉を白くひるがえしなから、そよいでいるが、自分にはひたすら妻のことを思っている、なぜなら今別れてきたばかりだから、というのである。

あるように、数えきれないほどに後ろをふり返り、妻のいる里に思いを馳せるのである。この場合の笹とは山を覆うくま笹のたぐいかと思われ、もしこれが孟宗・真竹のたぐいであつたら、ものぐるおしいほどの世界を現出する。この別れを歌ったものとして他に「石見のや高角山の木の間に我が振る袖を妹見つらむか」それに相当に知られた長歌がある。

野分(のわき)というのは暴風、台風を意味したり、秋に吹く強風を意味したりする。秋というものはもの思わせぶりの季節で、それに加えて強風は心に相当な荒廃をもたらす。万物はすさみ、人のころはすさまじい自然のいとなみに気圧される。しかしそこには不思議な平安とさわやかさがかもしだす。

後期より末期にかけて院政を敷き、絶大な力があつた。そこへ異変の兆しを思わせる騎馬武者の一群が馳せ向かう。とりわけこれは保元の乱(一一五六)の予兆を思わせ、風雲を告げるおもむきがある。さながら一幅の合戦絵巻を思わせる結構で、当時の、色調も鮮やかな騎馬武者が目につく。同時に野分がそれに呼応するかのように波乱の舞台を作りあげ、あらゆる世相に躍動を与えている。その裏面には画家と謝蕪村が顔をのぞかせている。蕪村はこのように歴史的なものに題材を得た色鮮やかな句をよく作っている。

さてここまで語ってきて、何としても私が挙げたいのは万葉の歌人大伴家持の歌である。わが宿のいささ群竹(むらたけ) 吹く風の音のそけきこの夕べかも

この家持には概して春をうらうらに照れる春日にひばり上がり 心悲しもひとりし思へば 春の野に霞たなびきうら悲し この夕影にうぐひす鳴くも

一般に春は陽気の、秋は愛いの季節としてとらえる傾向は国の違いは問わないものだが、たとえば、フランスのヴェルレーヌの秋の日の ヴイオロンのため息の身にしみてひたぶるに うらがなしなどにも顕著であるが、家持は万葉の時代にあつて、春のうれいをずいぶん歌っている。この家持には春日も霞もひばりの声もうぐいすの声も、要するに春の春らしさを演出するものは、うれい、悲しみを増幅させるものなのだろう。ある意味で陽気の象徴とも言える

ものが全て悲しみの対象なのだろう。そういえば近代の詩人北原白秋にもこれに似た想いがあつた。春の鳥鳴きを鳴き赤々と外の面(もの)の草に日の入る夕(ゆうべ) という歌である。春の鳥よこのような春の夕方にどつか鳴いてくれるな、心がしんみりして耐えられない、というのだ。

もとの本には「かそけしは家持独自の歌語で、音や光のあるかないかのすかなさまをとらえる繊細な言葉」とある。 ※前号から二回にわたって掲載しました。(了)

平成19年度校友会収支報告書

Table with columns: 科目, 収入, 支出, 摘要. Summary of financial activities for the 19th year.

校友会行事費関係収支報告書

Table with columns: 科目, 収入, 支出, 摘要. Summary of financial activities for association events.

平成19年4月28日(土)セミナーハウスガーデンにて「第19回卒業生の集い」を行いました。上記の通りご報告致します。平成20年3月31日 聖光学院校友会会長 石原 義一

編集後記

今回の校友会報は以下の広報委員会を中心に作成編集しました。委員長 石原義一 (3期) 委員 浅木克真 (9期) 委員 茅野 誠 (9期) 委員 中野秀和 (11期) 委員 花家 徹 (13期) 委員 狩野靖夫 (14期) 委員 高橋英一郎 (14期) 委員 伏見 靖 (20期) 委員 榎田恭平 (27期) 委員 澤田光生 (27期) 委員 加賀美博之 (31期)